第三十回「上方はなし」を聽く會

當四月二十日（土曜日）午後一時開演

於 松屋町内本町南 松竹座

組番

| | |
|---|---|
| 鳥屋坊主 | 林家染三 |
| 天災 | 桂花柳 |
| 鼻ねじ | 林家染語楼 |
| 口入屋 | 笑福亭松鶴 |
| 春雨茶屋 | 立花家花橘 |
| 百年目 | 桂米團治 |
| 足揚り | 桂米之助 |



入込噺

# 大阪名所 四季の夢

笑福亭 松鶴

「宅に居てゝかへ」

「イヤア　これは〳〵お出でやす」

「お前は何日來ても不在やが、今日は宅やな」

「ヘイ、何卒此方へお上り、今まで寢てましたんや」

「能う寢る男やな、今目が覺めたんか」

「ヘエ、先刻友達が來ましたのんで、一瓢腰に携へて、プラ〳〵散歩をしやうぢやないかと、二人連れで宅を出まして、梅屋敷の梅もニツコリと笑ひかけてる依つて、早咲の梅も好からうといふので、梅屋敷へ參りました。すると往昔と違ふて、何處も茶店をかけ怪しい女がマアお掛けやす、マアお掛けやす、マアお掛け、マアお這入りと云ふので、實に何うも風景といふものが少しもないので、これは面白をない、寧ろ新梅屋敷が却つて好からうと新梅屋敷へ參りました。此處にも仲居が居てからに、料亭同樣で、一向短冊の一つも持つて發句の一つも書いて遊ばうといふ氣にもなれまへ